



今週の注目材料=米FOMCは据え置き、英MPCは利下げ見込み

2025年5月5日

5月6日、7日に米連邦公開市場委員会(FOMC)、8日にイングランド銀行(中央銀行)金融政策会合(MPC)が開催されます。

FOMCは政策金利を据え置きの見込み、英MPCは0.25%利下げの見込みとなっています。

まずは米FOMCです。トランプ政権が相互関税の発動を発表した4月9日前後は今回のFOMCで利下げに踏み切るとの見方が強まる場面が見られ、短期金利市場の織り込みも50%を超える場面が見られました。しかし、対中関税を除いて90日間の猶予措置が発表されたことなどから落ち着きを取り戻し20%前後まで期待が後退すると、会合を前にその後もじりじりと据え置き期待が強まり、週末時点では92.7%が据え置き、7.3%が利下げと、現行の4.25-4.50%での据え置きで見通しがほぼ一致している状況です。トランプ大統領は利下げを強く望んでいますが、パウエル氏が今回の会合でそれに応じる可能性はほとんどないとみられます。

政策金利の据え置き見通しでほぼ一致している状況に加え、今回は四半期に一度公表されるFOMCメンバーによる経済見通し(SEP)が示される回には当たっていませんので、注目材料としては声明と会合後のパウエル議長の会見になります。

声明については前回3月のFOMCで見られた変化が継続する見込みです。前回の会合声明では「経済見通しを巡る不確実性は強まった」との文言が追加され、それまでの会合声明で見られた「雇用とインフレの目標達成に対するリスクはほぼ均衡している」との文言が除かれました。リスク警戒を意識する状況となっています。また、昨年12月会合声明から続く政策金利について「さらなる調整の程度と時期を検討する際」との表現は維持されました。

今回も3月と同様の表現が維持される見込みです。トランプ大統領の要請に乗る形で利下げは拒否するとしても、4月30日に発表された米第1四半期GDP速報値がマイナス成長になるなど、米景気に鈍化がみられること、物価自体は落ち着いていることなどから、6月には利下げに踏み切るとの見方がやや優勢。金利先物市場動向からみた金利変更確率を示すCMEFedWatchツールでは6月の利下げが58%となっており、短期金利市場の織り込みでは59.8%が利下げ見通しとなっています。こうした状況を受けて声明では3月同様に利下げの可能性を残す形での声明となる見込みです。

パウエル議長会見では、トランプ関税の影響などを受けた今後の金融政策見通しが注目されるところです。4月16日の講演で議長はトランプ関税について、規模は予想を大きく上回っている、物価上昇や成長鈍化といった影響も大きくなる可能性が高いと発言。金融政策運営については「情勢が一段と明確になるのを待つ態勢が整っている」としています。今回も同様の発言が見込まれますが、情勢明確化を待つという姿勢が強調されると6月の利下げ期待が後退し、ドル買いとなる可能性がある点には注意が必要です。6月は利下げ見通しがやや優勢とはいえ据え置き見通しも40%を超えています。議長会見などで据え置き見通しが50%を超えてくると、ドル高が強まります。

続いて英中銀MPCです。昨年8月に利下げを開始した英中銀ですが、その利下げペース

は穏やかなものとなっており、8月の利下げの後、9月の据え置きを経て11月の利下げ、12月の据え置きを経て2月に利下げと来て、前回3月が据え置きとなっています。2回に一回にペースが維持されるとすると、今回は利下げとなります。ベイリー総裁は4月24日の講演で、トランプ関税と各国によるその報復措置が英経済に与える衝撃を注視していると発言。先行きへの警戒感を示しています。

今回のMPCは四半期に一度の金融政策報告が公表される回に当たっており、ベイリー総裁の会見も予定されるスーパーサズデーにあたっています(英中銀は基本的にスーパーサズデー以外のMPCでは会見を行わない)。市場では金融政策報告や会見でこれまでに警戒感を強め、2会合に一回の利下げペースを速めてくる可能性が意識されています。短期金利市場の織り込みは5月8日の利下げがほぼ100%、6月19日に連続利下げに踏み切る可能性が60%となっており、これまでのペースではなく、連続利下げを期待する動きが過半数を超えています。さらに8月7日まで3会合連続利下げとなる可能性も45%程度と半分近くが期待しています。今回の利下げ自体は織り込み済みも、今後の利下げペースのアップについての期待が広がるようだと、ポンド売りが見込まれます。

山岡和雅 | ミンカブソリューションサービシズ 編集長

1992年チエスマンハッタン銀行入行。1994年ロイヤルバンクオブスコットランド銀行（旧ナショナルウェストミンスター銀行）移籍。10年以上インターバンクディーラーとして活躍した後にGCIグループに参画。2016年3月よりみんかぶ（現ミンカブ・ジ・インフォノイド）グループに入り、現在、minkabu PRESS編集部外国為替情報担当編集長。主な著書に「初めての人のFX 基礎知識&儲けのルール」すばる舎、「夜17分で、毎日1万円儲けるFX」明日香出版社など

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブソリューションサービシズは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブソリューションサービシズが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブソリューションサービシズ)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。